



のこのこたより

2021年 5月 第73号



社会福祉法人晃宝会

特別養護老人ホームあじさい園 宝

住所：奈良市南肘塚町99番1

電話：0742-24-0878 fax：0742-23-0373

第1回近代オリンピックは1896年アテネで行われました。古代ギリシアでは紀元前776年にオリンピック祭が始まり、4年ごとに開催されてきました。全ギリシア的な祭典競技は紀元393年までの約1200年間に293回続けられました。紀元前8世紀ギリシア国家の建設とともに地方の小規模な祭典競技が全ギリシア的な祭典競技へと再編され、紀元前776年に第1回目が行われました。以後4年ごとに第何オリンピックアードと呼ばれました。オリンピック祭は墓前競技、祭礼に伴って行われる行事として発展、聖地でゼウスをたたえるためのお祭りでした。

オリンピック祭の競技種目は、スタンディオン走（192m走）・ムスタンティオン走（往復走）・長距離走、5種競技（徒競走、跳躍、円盤投げ、槍投げ、レスリング）・レスリング、ボクシング、パンクラチオン（素手による格闘技）・少年徒競走・少年レスリング・少年ボクシング・武装競争・戦車競走・競馬です。

古代の狩猟・採集生活では石を投げたり、弓を射たり、槍を投げたりする運動技術は、人類が食物を捕獲し生きていくために必要な生活技術でした。道具を上手に使いこなすために絶えず練習を繰り返して技術の向上を図り、動物達に立ち向かいました。水泳やスキーなど野山を駆け巡る際に必要な自然の環境に合った特殊な運動技術や格闘するための技術も考案され、紛争の解決や種族間の競争の決着方法となりました。

その後、農耕、牧畜時代を迎え人々が一定の土地に長く住むようになり、生活技術であった運動技術の多くは、余暇の遊戯として発展しました。長い歴史の延長線上の東京オリンピック、気が引き締まります。



晃宝会の創立記念日！宝のご利用者様方も、松花弁だと紅白饅頭を召し上がりながら、お祝をしました。

桜の花が咲いてとてもきれいやねえ

今年も宝の庭の桜が満開になりました。ご利用者様は、桜を見ながらおやつタイムを楽しみました。



「今日は、暖かくて気持ちいいわ」

「外でよばれるケーキとお茶は、最高！」「いつもより美味しいわ」



ご利用者様どうし会話を楽しみながら、季節感のあるお食事を楽しんでいただきました。デザートのごは、ご近所の農家さんのもので「新鮮で甘くて美味しい」とお喜びいただきました。

ローズマリーに紫のかわいい花が咲きました。

今年も、トマトや茄子等の夏野菜の苗を植えました。

じゃがいもの葉が大きくなってきました。たくさん収穫できますように！



いつもご協力、ご支援ありがとうございます。新型コロナウイルスの影響により、5月の行事を自粛させていただきます。皆様のご理解とご支援を引き続きよろしくお願いいたします。

5月の行事予定

5日：端午の節句(昼食会) 12:00
21日：誕生日会 15:00



第49回 インプラントについて②

前回、インプラントの歴史やメリットなどについてお話ししました。

インプラントは現在非常に良い治療法として勧められています。が、長期的に使用していただくためには、やはり日頃のメンテナンスがとても重要になってきます。今回はより詳しくお話しします。

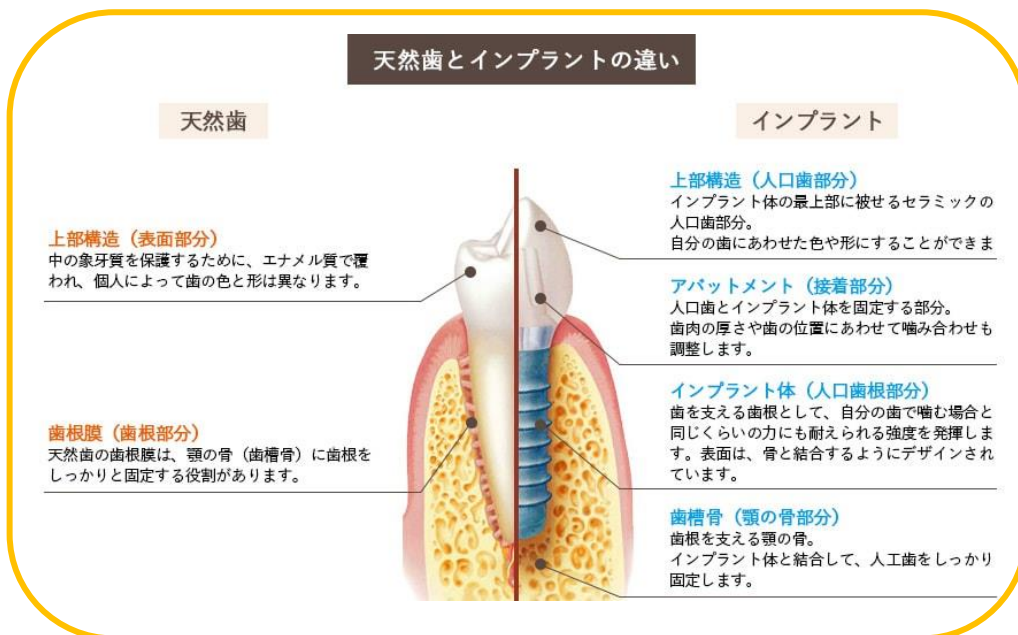
☆インプラントと自分の歯(天然歯)との違いは？

インプラント体と周りの骨とは隙間がなく、くっついた状態です。一方、天然歯の歯根の周りにはクッションの役割を担う歯根膜という組織があります。そのため、噛むと歯はわずかに沈み込みます。

またこの中には、噛んだ時にかかる圧力を鋭敏に感知して、噛む力をコントロールするためのセンサーもあります。インプラントにはこのようなクッションもセンサーもありません。

骨の弾力による僅かな沈み込みしか生じません。

噛む力はあごの骨の周りの骨膜、噛むための筋肉、あごの関節などにあるセンサーによってコントロールされますが、歯根膜にあるセンサーに比べると感度が劣るため、噛み合わせには十分注意する必要があります。また、インプラントの周りの粘膜は天然歯と異なっています。天然歯では、歯肉はエナメル質と付着上皮と呼ばれる部分で、その下の結合組織はセメント質と結合し、細菌などが容易に侵入できないようになっています。インプラントにはそのような構造はなく、細菌は容易にインプラントと粘膜の間に侵入します。そのため、歯ブラシによる清掃が重要となります。



インプラントと天然歯は構造が違っているので、より一層メンテナンスをしっかりと行う必要があります！



☆インプラントのメンテナンス

上部構造を装着したらインプラントの治療は終わりではありません。上記の説明にもあるように、インプラントは天然歯と構造が異なります。よって、インプラントを長持ちさせるためには、日常のお手入れと観察がより一層大切になります。清掃は歯科医院で専門家の指導の下に専用の機械や歯ブラシなどを使用して行います。また、噛み合わせやエックス線撮影をしてインプラント体周囲骨の吸収状態などを診査します。

装着後は、1か月、3か月、6か月、1年と1年以内は細かく、1年以降も3か月に1度の歯科医院での健診が望ましいです。

あじさい園 宝 歯科医師